

高師小学校のESD活動

<活動の概要>

本校では、総合的な学習の時間や生活科・社会科等で地域学習と行事とを関連づけた活動に取り組んでいます。地域素材である「人」「もの」「自然」に目を向け、地域から学ぶことにより、地域や学校のよさに気づき、誇りや愛着心を育み、人とのつながりを深めています。そして、自分たちが住む地域や身のまわりの事象、人々の生き方について関わりながら把握し、課題を見つけ、問題解決に向けて自ら動きだす子どもの育成を目指しています。

・活動の実際

① よりよい社会を築く活動（SDGsの目標を達成するために 6年）

6年生は、SDGsを学び、持続可能な世の中をつくるために、実践的な学習をしています。

1学期には、まずSDGsについて知るために調べ学習をしたり、自分たちにできることを校内に広めたりする活動を行いました。しかし、他学年の関心が思うように高まらず、子どもたちが思い描いていたような成果は得られませんでした。

そこで、2学期にはSDGsの目標を達成するために地域の方との協力が欠かせないと考え、地元のボランティア会「お互いさまの会」を中心とした協力隊の方々とともに地域にある公園の清掃活動を行いました。活動を終えた子どもたちは、地域の方と協力することでより効果的に活動ができたことを実感していました。また、校区自治会の願いを受け、校区にあるAEDの場所を地図に落としたり、SDGsを啓発するポスターを作成して地区市民館に掲示したりするなど、地域全体でSDGsの目標を達成するためにできることを計画し、行動に移しました。

校内では「SDGsウィーク」として、SDGsに関する児童集会やクイズラリーなどを企画し、全校で取り組めるようにしました。さらなる協力を促そうと、学習発表会でこれまで取り組んできたことを保護者や地域の方に伝えました。



校区の公園を清掃する子どもたち



作成したAEDマップを自治会長と確認する子どもたち

② 安心・安全な地域をともにつくる

（防災「みんなでつくろう、災害に強いまち高師」 4年）

4年生では、南海トラフ地震に備え、毎年防災活動に取り組んでいます。起震車体験で震度7の揺れを体験した子どもたちは、自分たちの住むまちを巨大地震が襲ったらどのようなだろうと考え、過去に起こった大災害の教訓をもとに被害を想定しました。高師校区は、住宅が密集していることから、地震火災の被害が大きいだろうと考え、校区をよく知る自治会や消防団の協力を得て、地域の問題を探る活動をしました。「家が密集しているから、火事が起こったら燃え広がってしまうよ」「狭い道が多いから緊急車両が通れないかも」「ご近所との交流が少ないから、災害が起きたときに協力ができないかも」といくつもの問題点に気づいた子どもたちは、「人々の命を守るためには、災害に強いまちにする必要がある」と考え、減災の取り組みについて地域に広める活動を始めていきました。学習発表会や地域の防災行事において、日頃からの備えや地震が起きたあとの身の守り方について発信しました。さらに地域の方と情報交換し、より多くの人々へ周知してもらうために活動を広げていきました。地域とともによりよいまちにしていこうとする思いを高めることができました。



消火器体験をする子どもたち



地域のかたとの防災会議